

「はなやまんまる☆キャンプ☆アドバンス①」報告書

1.趣 旨

東日本大震災を経験した沿岸部地域に在住する児童が、防災や冬季自然体験といった要素のある活動を行うことで意識をステップアップし、復興への前向きな姿勢につなげる。

2.事業の概要

(1) 期日

平成 28 年 12 月 23 日（金）～25 日（日）【2 泊 3 日】

(2) 参加者

①参加対象及び人数

宮城県沿岸部（山元町、亘理町、名取市、岩沼市、七ヶ浜町、仙台市宮城野区）に在住の小学校 4 年生～小学校 7 年生 50 名

②参加状況

学年	男子	女子	合計
小学校 4 年生	13	7	19
小学校 5 年生	7	2	8
小学校 7 年生	7	5	11
合計	25	13	38

3.企画運営のポイント

- ①冬山泊をメインプログラムとし、その準備自体もプログラム化することで、冬季に野外で宿泊する際に必要な準備に気づく機会となるようにし、災害時にも対応できる知識、技術習得のきっかけとなることをねらった。その際、寒さや不便さを実感しながらも居心地のよい空間にするために、どうすればよいかをグループに分かれて自分たちで考えながら実践できるような展開にした。
- ②冬山泊や野営をするにあたり、子ども達がより主体的に活動できるような動機づけを工夫した。本事業では、サンタクロースに会うために山に泊まるしかないというストーリーに仕立て、それに伴い、「サンタに会いに山に行く大作戦」と銘打ち、冬山泊に向けて参加者の気持ちが盛り上がっていきけるような設定にした。

4.日程

	午 前		午 後		夜 間
12月23日 (金)		受付 はじまり の会	昼食、出会い の時間	野外炊事（夕 食づくりと 仲間づくり）	フリータイム 入浴・就寝
12月24日 (土)	冬山泊準備、テント設営、野外炊事等（自分たちで野営の準備をしてみよう） 冬山で迎えるクリスマスイベント、冬山泊（冬山で眠ってみよう、お楽しみイベントも！）				
12月25日 (日)	冬山泊片 づけ（片 付けも最 後まで）	みんなでつ くるクリスマ スパーティー	終わ りの会		

5.主な活動内容



キャンプガスの使い方を習得



テント設営



キャンプの道具でラーメン作り



「サンタがやまにやってきた」

7.成果と課題

(1) アンケートの結果

満足：71.1% やや満足：27.3% やや不満：2.7% 不満：0%

(2) 参加者の声

- ・山で泊まるには、テントやご飯の準備が必要で冬の山はすごく寒いことがわかった。
- ・冬山でテントを張って過ごして、自然の過酷さがわかった。その中でも楽しいこともたくさんあった。
- ・「サンタにあいにやまに行く」という一つの目標を目指して冬山でみんなで協力することができてよかった。

(3) 成果

- ①冬山泊の準備をプログラム化し、グループに分かれて様々な技術を体験したことで、参加者同士が楽しみながら、協力しながら野外技術を習得するきっかけとなった。また、グループに分かれて別々の体験をしたことで、お互いに教えあう必要性に迫られ、協力体制を築くきっかけにもなった。そして、教える機会があった参加者にとっては知識技術の定着に役立った。
- ②1泊目と2泊目で宿泊形態を変えたことで、参加者の負担に配慮し、メリハリがついた。さらに、メインの冬山泊では、山での生活や諸活動を通して参加者が集中している様子が見られ、本事業において、自然の限られたものの中での教育活動の良さをうまく活用することができたと考えられる。

(4) 課題

- ①平成24年度から本事業を実施しており、回数や時期もその都度検討して行ってきたが、本事業では広報の対象地域が狭かった。1月に実施した宮城県沿岸部対象事業とともに、対象地域について検討する必要がある。
- ②本事業では準備自体もプログラムとして参加者が行ったため、スタッフは見守りながら見通しを立てることができたが、参加者フォローをより充実させるためには、野外技術を全スタッフが事前に習得しておく必要があった。